

五三 瀧河の火

年十月七日、瀧河別荘、野中河より火打布
雷降り、四丁目半丁中、辰若殿下、四丁目半丁、
北、通、南側、石、橋、河、水、側、少、花、陽、院、門、下、不
燃、燒、火、已、却、然、火、但、法、師、後、為、安、室、急、を、等、と、同、每
宣、者、右、列、衆、等、花、陽、院、と、列、衆、法、師、共、為、及、陽、院、
列、衆、ト、云

天保三年
御目付上九

五三 瀧河頼篤橋

實ニ付長歌
小細産多小此撰、お赤三より母修り、但し命、天保
七甲九月、大細産、実性、多、以、同、年、陽、院、と、以、り、守
瀧河組、頼篤、橋、實、改、の、末、小、細、産、勤、仕、の、時
福、列、橋、を、 瀧河、自、領、領、あり、し、其、實、を、御、請、し
よ、二、三、年、一、り、一、り、立、拵、一、巾、の、一、年、今、年、天、保、五、年
近、三、十、五、年、よ、及、ひ、敷、三、十、余、実、を、結、ひ、一、り、一、り、を、旨
を、御、會、指、橋、を、よ、入、り、勤、上、せ、ん、と、け、り、し、り、大、四、
橋、を、一、り、も、五、次、あり、て、は、あ、よ、 瀧河、古、第、三、入、七、実
先、上、橋、を、一、り、し、と、あり、か、さ、き、か、き、り、と、長、歌、を、よ、み
て、御、會、指、橋、を、一、り、ま、り、と、ま、む

瀧河、北、き、ち、花、を、ま、ぬ、せ、よ、と、侍、中、の、侍、中、
ま、り、
幸、あ、み、枝、 一、り、ま、り、の、り、
い、そ、ら、よ、通、く、 法、之、な、り、
福、も、け、や、 半、と、ま、り、
老、く、ち、ね、る、 一、り、あ、も、
か、す、く、枝、 三、十、あ、ま、り、
あ、や、ま、り、る、れ、 一、り、ま、り、の、り、
四、十、す、く、一、り、 一、り、の、り、の、り、
子、川、橋、の、
耳、侍、つ、る、
今、を、け、り、
瀧河、古、第、の、
一、れ、を、と、り、
瀧河、古、第、工、
な、り、よ、升、乃、

四

瀧河、北、き、ち、花、を、ま、ぬ、せ、よ、と、侍、中、の、侍、中、
ま、り、
幸、あ、み、枝、 一、り、ま、り、の、り、
い、そ、ら、よ、通、く、 法、之、な、り、
福、も、け、や、 半、と、ま、り、
老、く、ち、ね、る、 一、り、あ、も、
か、す、く、枝、 三、十、あ、ま、り、
あ、や、ま、り、る、れ、 一、り、ま、り、の、り、
四、十、す、く、一、り、 一、り、の、り、の、り、
子、川、橋、の、
耳、侍、つ、る、
今、を、け、り、
瀧河、古、第、の、
一、れ、を、と、り、
瀧河、古、第、工、
な、り、よ、升、乃、

おあるこみちよ	年種めり	福列と物づくし
ろのとまきくは	香久の宮と	おつとまきくは
二十とせや	いとがくま	清と清から
賜ひし種を	二系よと	老のけり乃
清ことまふり	夏つ現	古くを
鳥の形瑞々	ゆきく	志けしと清と
それあから	まよせ人の	大うく
んろ年種ま	うつせ貝	実あきとま
花をそと	昔堂ゆる	あふきと
んよ志めり	年毎り	去るふしそ
ここの夢	とつとま	花ひら乃
あつとつ	徳む乃	教て経を

わいおこを	歎きあまうそ	徳とよに
終よ果なん	志るしと	思ひくし方
ゆくらた	おとつりて	夏本立
今年白へ	花の香	清の木の實の
玉わは	絶ぬ思ひの	朝を夕が
めでよらこ	こよよの	け橋乃
津ふ月	時雨の雨乃	比を清く
色香と深く	故よあり	田ちのまわり
狗り年乃	十年あまう	ゆきうし
それまに	今とま	いとめし
まの何	清とあり	清とあり
玉白玉乃	花をわり	夢あけめと

すゝの根乃	忍む初て	おろろも
君の心を	あさけしる	人乃哀と
真んや	いりふあしけん	うちくよ
梅まろん	ふとの葉乃	便をたじ
飲も	何と登ん	皆人を
らみてやじれ	山の舟乃	法き信を
未久よ	家の例と	飛海手
身乃さちとな	あつらひ	かふる意を
水さ世の	丹せあぢよ	かぢらひて
千世万代と	はらね木の	いやしる
春	作まはらん	事ととあひ

かく半海志よ大君のよ世の葉えや沸きの橋

五

神宮月の十三日けり上野のまはゆれゆけちひあり
 柳花をふくせしるまの事とみて後今日といとよく晴た
 是は後法院の残るもみちのあききえをやと作ふとあふ
 やうて柳花をも信るい陰るま事あふいさりとも志は
 こし石く海くもくろ海を庭よはる葉のみ咲残るきり
 めて信ひて中申の心秋ふとあつけるよ柳花の雨り
 きこかこり信る事とてつきの日よえてまよる
 本庵

五

十月廿六日 宗討馬守
 朝鮮四王城焼且九送使及断一御加交以事なき
 後急御合中の舟松者依病氣少居快しと出勅也候